

ドレミファ器楽

フル・スコア

SK-86

ベートーベン  
「運命」第三楽章(抜粋)

小島里美 編曲


ベートーベンの第5シンフォニーは、「運命」の愛称で親しまれている彼の代表作、と言うよりも、古今の交響曲の中で、最も知名度及び人気の高い一大作品と言える。

ここではその中から、第3楽章を器楽合奏用に抜粋して、編曲してある。尚、原曲では、3楽章はそのまま終楽章に接続して演奏されるが、ここではこの3楽章だけで終わる部分と、終楽章につなげる部分との、両方の編曲がなされている。

この第3楽章は、冒頭にあるような伸びやかなテーマ1と、第1楽章を思い起こさせるような、力強いテーマ2(Ⓐ)からなる主部と、同主調に転調し、速いパーセージがフーガ風に転回する、トリオとで構成されている。 $\frac{3}{4}$ であるが、1楽章同様に、1小節を1拍に考えるのが常である。

〔演奏上の注意〕

最初は $\frac{3}{4}$ でゆっくりと丁寧に練習しなければならないが、仕上げ段階ではやはり1小節1拍振りで、音楽の流れを感じとれるよう、ガンバッテ練習して欲しい。また、テーマ1と2、そしてトリオと、この3種類のフレーズの特徴を、ハッキリと出すように。それにはまず強弱の差をキチンとつけること。そしてトリオでは、テーマの出だしをハッキリとさせ、先にテーマを奏していたパートは、他のパートにテーマが移る所で、やや音量を落すこと、それがポイントである。ただしリコーダーだけは、音量の差によって、音程が狂い易い楽器なので、あまり激しい音量差をつけようとしなくてよい。

尚、 Coda1.2とあるが、この3楽章を単独で演奏する時は、1の終止コーダを、又、終楽章へ続けたい時は、2の接続用コーダを演奏するように書かれている。

アコーディオン、鍵盤ハーモニカ、及び木琴、鉄琴に於て和音が書かれてある箇所は、和音弾きをせず、各々が一つずつ音を弾き、和音をつくって下さい。

 ミュージックエイト

*Allegro*



フルート  
(無くても)  
演奏可能

ソプラノ  
リコーダー

鍵盤  
ハーモニカ

ソプラノ  
アコーディオン

アルト  
アコーディオン

テナー  
アコーディオン  
(オクターブ  
上に記譜)

バス  
アコーディオン

木  
琴

鉄

(B Acc)のない時Play

ベートーベン

「運命」第三楽章(抜粋)

鍵盤ハーモニカ

小島里美 編

Allegro  $\text{♩}$  a. tempo

7 9

(A) a. tempo

*f* *P*

*sf* a. tempo 8

(F) *f*

(H) *sf* *sf*